

| | | | | |
|------------------|------|----|-------|----|
| 【担当教員名】 伊東 正裕 | 対象学年 | 3 | 対象学科 | 社会 |
| | 開講時期 | 後期 | 必修・選択 | 必修 |
| | 単位数 | 2 | 時間数 | 30 |

【一般目標：G I O】
社会福祉士として、心理的な相談のための面接を適切に行なうために、カウンセリングの理論上の諸問題について多角的に検討し、人間への理解を深める。

【行動目標：S B O】

1. カウンセリング理論を「学ぶこと」の意義を説明できる。
2. カウンセリングをめぐる理論的諸問題を挙げ、概略を説明することができる。
3. カウンセリングをめぐる理論的諸問題について、自分の意見を述べるができる。
4. ケース・スタディの意義について説明し、ケース・レポートを適切に書くことができる。

| 回数 | 授業計画又は学習の主題 | SBO | |
|----|---|------|--------------------|
| | | 番号 | 学習方法・学習課題又は備考・担当教員 |
| 1 | オリエンテーション：カウンセリング理論を学ぶ意味、「技法」と「理論」の関係 | 1 | 講義 |
| 2 | 他者理解の方法としての面接：カウンセリングの目的、面接法の特徴 | 2.3. | 講義 |
| 3 | 人を分かるということ：サインの解読、「人として」の理解 | 2.3. | 講義 |
| 4 | カウンセリングの構成要素：聴くこと・見ること・対等な出会い・専門的關係・ストーリー | 2.3. | 講義 |
| 5 | ストーリーと「見立て」：構造化された観察、ストーリーを読む、「見立て」を立てる | 2.3. | 講義 |
| 6 | 共感とは何か：共感と同情、一体感と距離感、カウンセリングにおける共感 | 2.3. | 講義 |
| 7 | カウンセリングにおける観察：科学者の観察と面接者の観察 | 2.3. | 講義 |
| 8 | 「出会い」について：「出会い」とは、自己の構造 | 2.3. | 講義 |
| 9 | カウンセリングと言葉：日常語と専門語、方言と標準語、言葉の意味 | 2.3. | 講義 |
| 10 | カウンセリングの展開：受けとめること、見守ること | 2.3. | 講義 |
| 11 | 家族の問題：家族の扱い方、家族の問題の理解 | 2.3. | 講義 |
| 12 | 劇としてのカウンセリング：クライアントの役割と面接者の役割 | 2.3. | 講義 |
| 13 | フロイトとロジャーズの理論：精神分析的カウンセリング・来談者中心カウンセリング | 2.3. | 講義 |
| 14 | ケーススタディについて：ケース・スタディの意味、ケース・レポートの書き方 | 4 | 講義・実習 |

| 【使用図書】 | <書名> | <著者名> | <発行所> | <発行年・価格・その他> | |
|--------|--------------|-------|--------|--------------|-------|
| 教科書 | 面接法 | 熊倉伸宏 | 新興医学出版 | 2002 | 1500円 |
| 参考書 | 新訂・方法としての面接 | 土居健郎 | 医学書院 | 1992 | 1800円 |
| その他の資料 | 毎回プリントを配布する。 | | | | |

| | |
|------------------------------|--|
| 【評価方法】 出席状況 定期試験（レポート） | 【履修上の留意点】 この授業では、1年次生を対象とした「カウンセリング技法」と共通のテキストを用いるが、今回は理論的な問題を中心に取り上げるので、カウンセラーの倫理や基本的な態度については、テキストを通読して理解しておくこと。 |
|------------------------------|--|